

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-83C	17-013	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名（原題／訳）		
Lifetime Alcohol Intake, Binge Drinking Behaviors, and Breast Cancer Risk. 生涯飲酒量、大量飲酒と乳がんリスク		
執筆者		
White AJ, DeRoo LA, Weinberg CR, Sandler DP.		
掲載誌		
Am J Epidemiol. 2017 Sep 1;186(5):541-549. doi: 10.1093/aje/kwx118.		
キーワード		PMID
生涯飲酒量、大量飲酒、乳がん、交互作用		28486582
要 旨		
目的： 米国で大量飲酒の機会が増加している。アルコールは乳がんの危険因子であるが、大量飲酒の影響については知られていない。		
方法： Sister 研究(n=50,884)は 2003-2009 年に 35-74 歳で、米国あるいはプエルトリコに在住し、乳がん患者の姉妹を持つが自身は乳がんのない女性を対象とした前向きコホート研究である。飲酒量は基礎調査時の質問票により得、乳がん発症は自己申告と診療録により確定した。		
結果： 多変量 Cox 回帰分析を用いて乳がんに対するハザード比(HR)および 95%信頼区間(95% CI)を算出した。平均追跡期間は 6.4 年、1,843 人が乳がんと診断された。生涯飲酒量が <60drinks/年の人に比べて ≥230drinks/年の人は乳がんのリスクが上昇した(HR=1.35, 95%CI:1.15, 1.45)。軽度飲酒者(<60drinks/年)の中で、大量飲酒および飲酒による記憶喪失の経験のある人はハザード比の上昇を認めた(HR=1.29, 95%CI:1.15, 1.45 および HR=1.39, 95%CI:1.17-1.64)。大量飲酒経験のない軽度飲酒者と比較すると、大量飲酒経験のある中等度飲酒者(60-229drinks/年)はリスクが上昇した(HR=1.25, 95%CI:1.08, 1.44)。中等度の生涯飲酒量と大量飲酒経験の間に交互作用を認めた。		
結論： 生涯飲酒量と乳がんの関連を認めた。特に中等度の生涯飲酒量の人において、大量飲酒経験はリスクの上昇と関連した。		